

ボラ連の役員になって



福島 喜久栄

私がボランティア連絡協議会の役員になったのは退職後の平成10年4月からでした。私のボラ経験はまごころのふれあいサロフ、福祉実践教室、介護教室の開催、そしてボイスカウトなどがあります。

ボラ連の役員を務めている期間中に起きた、阪神淡路大震災の際にはボランティア活動が取り上げられ、瀬戸でも災害ボランティア部が立ち上りました。またボランティアは近隣の協力が不可欠ということから、尾張旭市のボラ連に交流会を提案し「瀬戸・尾張旭市ボランティア交流会」を行うようになりました。災害ボランティアの講演を開いたり、実際活動ができるような学習もしました。

長年ボランティアをしてきたからこそ、様々な人の出会い、そして学びがありました。ぜひ皆さんもボランティア活動を通して、ボランティアの魅力や楽しさを見つけてください。

第1号～第100号までのボランティア登録数の推移

ボラだより号数	第1号	第25号	第50号	第75号	第100号
発行年	1998年4月	2004年3月	2010年6月	2016年9月	2023年10月
ボランティア 登録状況	62団体 1700人 個人22人	およそ91団 体2535人 個人不明	111団体 2994人 個人不明	96団体 1976人 個人10人	78団体 1312人 個人14人

編集だよりメモバー

第100号が発行できるのはひとえに皆様の協力あってのことだと感謝しています。

私事ですが2010年9月第51号から参加させていただきましたが、最初は何もわからず、とまどいもあり、足手まといになっていたと思いますが、10年以上も続けてくれたのは先輩達の指導のおかげです。

これからもいろいろな記事を載せ毎回楽しみにしてくださるようなボラだよりを作成していきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いします。

ボランティアだよりは100回を迎えることとなりました！これもひとえにボランティアの皆様方また、ご協力を下さった方々のおかげと感謝しています。これからも一層のご協力をよろしくお願いいたします！

100号の記念号の発刊にたずさわれたことを大変光栄に思います。第1号の発刊から25年間で100号に到達でき輝かしい歴史を今後も大切に守り後世に引き継いでいきたいと思います。

「継続は力なり」という言葉がありますが、25年で100号の発行となりました。紙媒体による情報の収集と伝達は色あせることはないと思います。目指せ200号。



小森多美子



高島勇子



水野和明



木下幸哉

ボランティアだより

2023年10月3日発行
瀬戸市社会福祉協議会ホームページ



編集：ボラだより編集クラブ
発行：瀬戸市社会福祉協議会ボランティアセンター
瀬戸市川端町1丁目31番地 TEL 84-2011・FAX 85-2275
Eメール：vc@seto-shakyo.or.jp

登録ボランティア紹介

「手話サークル瀬戸」

「手話サークル瀬戸」はこんなボランティア活動を行っています

「手話サークル瀬戸」 代表 磯部 智子

手話サークル瀬戸は、昭和54年と55年にわたり開催された「手話奉仕員養成講座第一期・第二期」の修了生を中心に障がい者の強い要望のもとに、昭和55年10月に設立され43年が経ちました。長く続けることができたのは、会員の皆さんのがんばり精神と一生懸命、活動に取り組んでくださったおかげです。

私たちのPRポイントは、「手話でつながるボランティア G・T・S」つまり「元気に・楽しく・参加する」をモットーに行っています。

主な活動として、社会福祉協議会の事業で手話通訳や福祉実践教室への協力、障害者団体で行われる事業の会場設営や受付の協力をしています。また、公民館やNPO法人施設からの依頼でミニ手話教室を開催し幅広く活動をしています。

手話技術向上のため例会を、毎月第1・2・3金曜日の10時と19時から、第2火曜日の10時から開催しています。

サークル行事では、春と秋のハイキング・研修旅行「電車でGO！」・クリスマス会などの交流を楽しみ会員同士の仲も深めています。

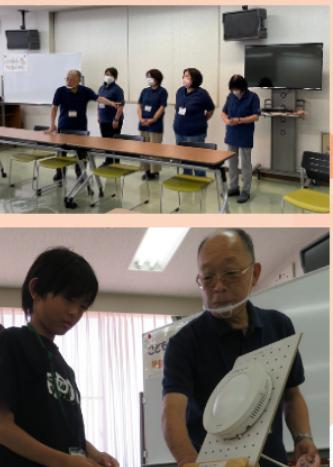


こどもふくし体験きやらばん

小学4～6年生を対象にボランティアや福祉に触れて
いただくことを目的に、やすらぎ会館で開催しました！

7/25

手話サークル瀬戸の皆さんにご協力いただき、聴覚に障がいがある方の日常生活や簡単な手話を教えていただきました。



8/1

視覚に障がいのある方にご協力いただき、日ごろ使っている道具を見せていただきました。
ガイドヘルプの方法を学んだ後、新瀬戸駅の改札やホームでガイドヘルプ体験を行いました。



福祉実践教室

福祉実践教室は児童・生徒が、地域で暮らしている障がい者や高齢者等との交流を通して、「豊かな人間性」や「共に生きる力」を育むことを目的とするものです。
車いす・手話・要約筆記・点字・盲導犬・視覚障害者ガイド・知的障がい者理解・高齢者疑似体験・音訳・認知症センターの10科目あり、講師・ボランティアの方々のご協力により、開催しています。
各学校へむけての説明会後、申請のあった学校へ希望する科目の実践教室を行います。
当事者の方とお会いし普段の暮らしを聞いたり、声かけの仕方を教わったり、実際に体験をしています。
令和5年度は小学校14校、中学校1校、高等学校等4校の計19校から申請があり、随時実施しています。



高齢者
疑似体験



音訳



実践教室をお手伝いいただける方も大募集！まずはボランティアセンターへ！

今後のボランティアサロンの予定

みんな遊びにきてね❤️	11月19日(日)	2階	おりがみを楽しもう	ボランティアコーディネーター連絡会
	10:00～15:00	ボランティア室	inふくしボランティアフェスティバル	

防災に役立つ！新聞スリッパの作り方



完成！

段ボールで
強度UP！